

2022年度 第10回 総会 議案書

- 日 時 2022年5月21日（土） 午前9時30分～
- 場 所 たけまるホール多目的室

特定非営利活動法人 生駒の地域医療を育てる会

(次 第)

- (1) 司会による開会と進行
- (2) 事務局による総会成立の報告

総会

- 1: 理事長挨拶
- 2: 議長選出
- 3: 議事
 - (1) 議事録署名人の選任
 - (2) 2021年度の活動報告
 - (3) 第1号議案 2021年度事業報告及び事業収支決算報告
 - その1. 2021 年度事業報告
 - その2. 2021 年度収支報告及び決算
 - (4) 第2号議案 2022年度事業及び事業収支予算
 - その1. 2022年度事業方針
 - その2. 2022年度事業計画及び予算
 - (5) 第3号議案 2022年度人事

意見交換会

本総会議案は 2022 年 4 月 30 日の理事会で審議され決定された。

その後の修正については全役員参加のメールにて意見調整を行い、2022 年 5 月 10 日を以て理事会による承認が完了した。

理事長挨拶(世界の数字は 2022/5/1、生駒市の数字は 2022/4/28 時点)

2019 年末に発生した新型コロナウイルス感染症(以下、コロナ)は瞬く間に世界を席卷しました。2 年半を経過した現在、世界の感染者は 5 億人、死者は 623 万人を超えたと伝えられます。日本ではすでに第 6 波を経験し、第 7 波が迫っています。コロナでの感染者は日本でこれまでに 791 万人を超え、死者は 2 万 9600 人を超えています。生駒での感染者は 7785 人、死者は 24 人になっています。すでに 2 年半もの間コロナ下に暮らすことになってしまいました。これがいつ収束するのかも分からず、このままずっとコロナとともに生活を続けなければならないかもしれないと暗澹たる気持ちになります。

このコロナ禍で全国的に医療崩壊というべき状況に置かれ、多くの感染者が入院できず自宅療養を余儀なくされ、自宅で亡くなる多くの人が出てくる一方で、コロナ以外の患者の治療ができない事態も起こりました。最近の看護協会の調査から看護師の 8 割が「感染の恐怖」を、2 割が差別や偏見を経験したことが分かりました。このような事態の中で私達の周りではどうだったのかを掴むことが難しく、地域医療に関わる NPO としての役割を十分はたせなかったことが一番残念なことでした。

コロナ禍の制約された条件下で私達は私達にできることを積み重ねてきました。その一つは医療についてのオンラインおしゃべりサロンの継続でした。医療をいろんな方面から考えて意見交換する中で知らなかったことに出会ったりしながら会話を重ねてきました。これについてのフェイスブックでの紹介も始めました。また介護を受けている人、介護家族の人、介護職の人などいろんな立場の人達と介護について懇談をしました。その中から何が特に問題なのかが浮き彫りになってきました。ヤングケアラーについて、最近小 6 の 15 人に 1 人が家族の世話をしているという調査結果が出ましたが本当に心が痛みます。そんなことから医療や介護での経験や心配を気軽に話し合える場をつくろうという話になって、2021 年度に入会した若い会員たちの手でオープンチャット(LINE)が開設されました。

コロナ禍とはいえ、自粛ばかりしているわけにはいきません。コロナ禍だからこそやらなければならないことが沢山あります。着実に楽しく、「手ごたえ」を掴めるよう、前進していきたいと思います。

(追記)どうしても述べなければならないことがあります。ロシアによるウクライナ侵略から 2 か月以上が過ぎ、すでにウクライナの民間人 2 万 3000 人超、ウクライナ兵士 3000 人が死亡。ウクライナからの国外避難民は 500 万人を超え今後 830 万人に上る可能性もあるとの情報に接します。その上ロシア兵士 1 万 5000 人が死亡との情報もあります(数字はいずれも不確定です)。

ロシアの侵略はいつまで続くか分からず被害が急増することは避けられない状況です。その上プーチン大統領は核兵器の使用も辞さないと脅しています。ロシアが直ちにウクライナから兵を引き、停戦を実現させることが、現在の人類の最大の使命だと思います。医療に関わる NPO として私達もその使命を担う一員との自覚を持ちたいと思います。

議事録署名人の選任

議事録署名人として小田享子理事及び奥田陽子理事を提案する。

2021年度の活動報告

2021年度の活動報告

日時	内容	場所	参考（理事会の主な議題など）
2021年 5月29日	第9回総会	セイセイビル 401会議室（9:30-）	正会員総数24人、出席者10人、委任状10人 リアルとオンライン併用
5月29日	第1回理事会	同上（11:15-11:40）	理事8人・監事 理事長/副理事長選出 講師謝礼
6月22日	地域医療課との懇談	市役所	石田次長//長島理事長
6月26日	第2回理事会	オンライン（自宅）	理事9人・監事 PJの活動、理事長専決事項、総会オブザーバー参加、会員 メーリングリスト、駐車料金
6月30日	県に事業報告を提出	県庁	沢田理事
7月14日	ららぽーと登録団体総会	オンライン	伊木ま・小田・沢田理事、
7月14日	ネットPJ：やまと西和ネット 事務局との懇談	セラビー生駒	事務局：森本事務局長、藤堂職員 ヘルスケアリレーションズ：小林様 NPO：長谷川・長島・伊木ま理事
7月24日	第3回理事会	オンライン（自宅）	理事9人・監事 PJの活動、総会の進め方、入会手続き
7月28日	病院PJ：おしゃべりサロン 第1回オンライン	オンライン	テーマ 最近のコロナ禍で医療や介護で困っていること 参加者 12人
8月11日	地域医療課との懇談	市役所	石田次長//長島理事長
8月17日	介護PJ：介護保険課との懇談	市役所	吉村介護保険課長//長島理事長
8月17日	新入会員1人		日野さん
8月28日	第4回理事会	オンライン（自宅）	理事9人・監事 PJの活動、いこまSDGsアクションネットワークへの参加 応募承認
8月31日	生駒市立病院管理運営協議会	生駒市立病院	伊木ま・長谷川理事傍聴
9月3日	病院事業推進委員会	市役所	委員参加：伊木ま・奥田理事
9月11日	介護者(家族)の会との懇談	セイセイビル	参加者 介護者(家族)の会3名、当会3名
9月22日	いこまSDGsアクションネット ワーク会員登録		伊木ま・奥田理事申請書作成

9月25日	第5回理事会	オンライン（ららポートと自宅）	理事9人 PJの活動、
10月7日	いこまSDGsアクションネットワークキックオフイベント	セイセイビル4F	伊木ま理事（沢田・湯川理事は他団体から参加）
10月8日	病院PJ:おしゃべりサロン第2回オンライン	オンライン	テーマ：ACPについて 参加者 12人
10月23日	第6回理事会	オンライン（ららポートと自宅）	理事8人 PJの活動
10月27日	西和構想区域地域医療調整会議	セイセイビル	伊木ま理事傍聴
11月7日	市制50周年記念式典	たけまるホール	伊木ま理事
11月8日	介護PJ:介護職員との懇談会	オンライン	参加者 介護職員7名、当会2名、当会傍聴数名
11月12日	第66回奈良県医療審議会	県橿原総合庁舎	阪奈中央病院 単独病床機能再編計画について 伊木ま理事傍聴
11月12日	病院PJ:おしゃべりサロン第3回オンライン	オンライン	テーマ：救急医療について 参加者 9人
11月13日	介護PJ:会員との懇談会	美楽来・オンライン	参加者 当会会員12名
12月11日	地域医療を守り育てる住民活動 全国シンポジウム	オンライン	伊木ま・奥田理事
12月15日	いこまち宣伝部取材	ららポート	長島理事長・伊木ま理事
12月15日	新入会員1人		磯部さん
12月15日	地域医療課との懇談	市役所	石田福祉健康部次長//長島理事長・伊木ま理事
12月24日	地域医療課との懇談	市役所	石田福祉健康部次長//長島理事長
12月28日	第7回理事会	オンライン（自宅）	理事8人・オブザーバー参加1 PJの活動、
12月28日	NPO法人変更登記完了		伊木ま理事
12月31日	退会1人		中村会員（転居）
1月12日	介護PJ: 福祉健康部次長と面談 介護保険課長と懇談	市役所	長島・湯川理事//伊木ま事務局同席 長島理事//伊木ま事務局同席
1月14日	生駒市立病院との懇談	市立病院	病院：遠藤院長、辻川看護部長、岸田事務部長、 持田事務長 生駒市：石田次長 長島・長谷川・伊木ま・沢田理事、宮内監事、磯部会員

1月22日	第8回理事会	オンライン（ららポ ート研Bと自宅）	理事7人・監事 市立病院との懇談を受けての理事長からの提案、HPでの 会の紹介、フェイスブック開設、PJの活動
2月7日	ネットPJ: ヘルスケアリレーションズと の懇談	オンライン	NP0:長島・長谷川・伊木ま理事 今後のやまと西和ネットサポートについて
2月18日	病院PJ:おしゃべりサロン第 4回オンライン	オンライン	テーマ:在宅医療について 参加者 10人
2月26日	第9回理事会	オンライン（ららポ ート研Bと自宅）	理事7人・監事 当会・市立病院・生駒市の三者連絡会について、フェイ スブック、PJの活動、総会について
3月16日	介護PJ・介護保険課長と懇談	市役所	長島理事
3月17日	LINE オープンチャット「生駒 の医療介護相談室」開設		長島理事長、磯部・三條場会員
3月17日	市立病院管理運営協議会	市立病院	委員参加:磯部会員 // 伊木ま理事傍聴
3月19日	生駒市病院事業推進委員会	セイセイビル	令和4年度生駒市立病院の管理運営に関する年度協定書 (案)について諮問あり、答申 委員参加:伊木ま・奥田理事 // 加来洋会員傍聴
3月26日	第10回理事会	オンライン（自宅・ ららポート研B）	理事6人・監事 LINE オープンチャット開設、PJの活動、総会準備、第11 回理事会日程変更
3月29日	病院PJ:おしゃべりサロン第 5回オンライン	オンライン	読書会:福祉の国からのメッセージ デンマーク人の生き 方・老い方 参加者 12人
4月7日	介護PJ・山本副市長と懇談	市役所	長島理事
4月20日	自主学习グループ連絡会総会	たけまるホール	沢田理事
4月21日	ららポート登録団体総会	セイセイビル	沢田理事
4月23日	オープンチャット担当者打ち 合わせ		長島理事長、磯部・三條場会員
4月30日	第11回理事会	オンライン	理事7人・監事 今後の活動、総会準備、総会議案書

その1. 2021年度事業報告 (2021年5月29日～2022年4月30日)

1-1. 2021年度事業計画に基づく事業について

定款第5条(事業の種類)に基づき記述する。

(1): 調査研究、提言などの事業 及び見学会、学習会、講演会などの事業

具体的な実施事業では定款の上記2つの事業は明確に分けられないため、1つにまとめて報告する。

(特記事項) 生駒市・生駒市立病院・NPO三者懇談からの新たな取り組み

1. 三者連絡会

2022年1月の市立病院との懇談テーマについて生駒市地域医療課との打ち合わせの折(12/24)に当方から三者連絡のアイデアを打診したところ、賛同の表明があったので、1月14日の市立病院との懇談の最後に三者連絡について提案打診し、院長より同意の返事を得た。その後事務部長にも直接了解を得られたので、具体化するには後日相談に伺うと伝えた。その経緯を1月22日の理事会に報告し、異議なく了承された。

三者連絡会の三者とは当NPO・市立病院・生駒市(地域医療課)。はじめは三者の責任者+担当者の相談会を持ち、その後は担当者による作業を想定。

2. LINE オープンチャット「生駒の医療介護相談室」の開設

① 発端・・上記三者連絡会の構想の下、具体的な作業としてSNSの開設により、市民からの声を集めてそれについて三者で話し合い、そこから次の手を考えるという構想を立てた。当初はSNSを三者連絡会の名で立ち上げる考えだったが、市からSNSに市が参加することはできないとの意見が出たので、当NPOが単独で開設することにした。従って、本件のSNSは当会の開設運営によるもので、市や市立病院には直接関係ないものとして出発することになった。

② 開設するSNSの概要

【開設するSNS】・・LINE オープンチャット

- ・ アイコン・・育てる会のマークを使用
- ・ カテゴリー・・「地域・暮らし」
- ・ 定員数「5,000名」
- ・ 公開設定「全体公開」

【開設時期】・・2022年3月17日

【名称】・・生駒の医療介護相談室

【開設者の紹介】・・このオープンチャットは<NPO 法人生駒の地域医療を育てる会>が開設し運営。

【運営方針】・・「生駒の医療介護相談室」の運営はつぎのように行う。

①医療介護での悩み・相談・意見などを発信し合う。但し投稿された質問や意見に対してこのLINE管理者が回答するというわけではない。

②発信された意見が一定集まった段階で収集する。

③収集した意見を問題別に整理し、項目別に関係すると思われる医療・介護・行政関係者などに紹

介して、そこから見える問題点や課題などについて話し合いを持つ。(これは本LINEの外で行う)
㊦その結果を「生駒の医療介護相談室」に報告し、この一連の流れを参加者が共有できるようにする。

㊧このようにすることによって、投稿者の声が医療・介護・行政・その他の機関に届き、何らかの対応につながるようにしていく。

㊨この一連の流れの中で個人情報「生駒の医療介護相談室」の外に出たり、誰かが不利益を受けることがないようにする。

【共同管理者】・・管理者 NPO 法人生駒の地域医療を育てる会理事長 長島 稔
副管理者 磯部 良和、三條場 裕紀

③ 市民への PR

㊩チラシを作成して公共施設や福祉施設に配布する。

㊪適当な時期に説明会を開催する。

(1-1) プロジェクトチーム (PJ) による活動

2020年度の事業方針に基づき、3つのプロジェクトを軸に活動を展開した。

(A) 「長期的な生駒の地域医療・生駒市立病院の将来像を考えるプロジェクト」(略称:病院PJ)

<担当者> 伊木ま理事・奥田理事

<2021年度の活動総括>

1. 2021年度の総会方針は次の通り。

若い世代も含めた多くの人々が地域医療を自分事として捉え考えることが重要との認識から、地域医療のあるべき姿＝地域医療の将来像や生駒市立病院の将来像を多くの人と一緒に考えていくことを目標に掲げた。具体的には

①市民の当事者意識の醸成と意見の聴取

もしバナゲームやワールドカフェの実施

②地域医療構想を知る・・・地域医療構想調整会議や医療審議会での協議内容を注視する

③市民・市・市立病院・生駒市医師会との対話

コロナ、救急医療、災害医療などをテーマに適宜実施

2. 昨年度の方針に対しての実績

①市民の当事者意識の醸成と意見の聴取

コロナ下で対面での開催が困難であったことから、もしバナゲームやワールドカフェは実施できなかった。もしバナゲームについては、コロナ下でマイスターの取得のための講習会が開催されなかったことも、開催に繋がらなかった要因であった。これらに代わる取り組みとして、以前開催していたおしゃべりサロンを実施した。

おしゃべりサロンは平日の20:00-21:30にオンラインにて5回実施し、参加者が少ないながらもテーマに沿った凝縮した対話ができる。

*7/28(水) 参加者12名 テーマ:最近のコロナ禍で医療や介護で困っていること

感想:「(オンラインなので)コロナ禍でも安心して参加できた」「異業種の方の意見が聞けた」

*10/8(金) 参加者12名 テーマ:ACP(人生会議)について

感想:「自分以外の方のお話をじっくり聞けた」「人生を考えさせられた」

*11/12(金) 参加者 9 名 テーマ：救急医療

感想：「患者本人の意思確認ができないときの対処（医療行為の是非）の困難さがわかりました。」
「地域医療についての問題点を共有できた」

*2/18(金) 参加者 10 名 テーマ：在宅医療

感想：「在宅医療の問題点のいくつかが認識できた。」「生駒市の在宅医療の現状が分かり、緊急時のバックアップがあれば訪問医療をする医院を増やせるのではないかと思えた」

*3/29(火) 参加者 12 名 テーマ：読書会「福祉の国からのメッセージ - デンマーク人の生き方・老い方」

感想：「日本とデンマークの違いが分かったこと。その違いが生まれた「ワケ」は何なのかの手掛かりの一端が掴めたことがよかった」「孤独/孤立と自殺は社会問題として捉える北欧と日本は個人の問題として捉えていた過去があります。どうやって、個人を社会とつなげていくのか考えさせられました。事例紹介も新鮮でした。」

全体としては、否定されないので話しやすいなど回答があった。回を重ねるごとに、参加者の視野が広がり、考えが深まる様子が感想から伺える結果となった。

見えてきた課題として以下のことが挙げられる。

- ・市民の参加が少なく、参加者が固定しがちなので広く意見を聴取するに至っていない。
- ・在宅医療などは率直な意見を聞いて NPO の今後の方針に生かしたかったができなかった。在宅医療に関わる医師や介護者家族に参加を求める必要がある。
- ・医療や介護は視野の広さや角度の多様性が必要なので、テーマの選び方、参加者の呼びかけなどに一層の工夫が必要である。

②地域医療構想を知る・・・

西和構想区域地域医療調整会議は 2 回開催された。10/27 は傍聴、2/10(オンライン)は開催を把握していなかったため、傍聴できなかった。10/27 は阪奈中央病院から 55 床削減し 200 床とする計画が示された。

医療審議会も 2 回開催された。第 66 回医療審議会（11/12）を傍聴した。阪奈中央病院の減床計画が承認された。第 67 回（H4.3.29 オンライン開催：近大奈良病院の地域医療支援病院申請）は開催を把握していなかったため、傍聴できなかった。

③市民・市・市立病院・生駒市医師会との対話

市民との対話はおしゃべりサロンを通して実施した。

市・市立病院との対話については、P J として単独では未実施。

医師会との対話については、3/19 病院事業推進委員会で生駒市医師会長に挨拶し、PJ への協力を要請した。

(B)「生駒の地域医療・在宅医療・介護・かかりつけ医を考えるプロジェクト」(略称:介護PJ)

<担当者> 長島理事・湯川理事

<2021年度の活動総括>

1. 2021年度の総会方針は次の通り。

(1) 「総合事業」について・・・①昨年度当会の提案と生駒市の施策が合致して開始された「住民主体の生活支援サービスモデル事業」を軌道に乗せることを重点課題として取り組む。②「住民主体の生活支援サービスモデル事業」を軌道に乗せるための財政支援の改善を市に要望する。③生活支援に対して、要支援者・要介護者・認定外の高齢者のニーズ(必要度)をつかみ、どれだけの人が必要としているのかその人数を把握するための取り組みを行う。

(2) 第8期介護保険事業について・・・①介護のニーズを数字としてつかむ取り組みを行う。②介護する側の実態を把握する取り組みを行う。具体的には介護事業所の介護人材の人数把握、介護人材の不足人数の現状と将来予測、介護人材獲得の方策を目指して市と協議する。

2. 昨年度の方針に対しての実績

(1) 「総合事業」の「住民主体の生活支援サービスモデル事業」についてはコロナ禍で地域住民の活動が休止状態に置かれたため、当会としてもそれを支援する活動ができずに終わった。

(2) 第8期介護保険事業計画の中身の検討については、次の活動を行った。

①介護人材の確保対策のためには人材不足の実態を掴む必要があることから、介護人材の現状の人数把握と2025年・2040年に必要な人材数とそのために確保しなければならない人数の把握にチャレンジした。これらの数字は生駒市としてもとらえていなかったもので、介護保険課に対して当会から数字を掴むためのアプローチを提案し、介護保険課と相談しながら初歩的な数字を掴むことができた。介護人材の正確な現状人数把握は事業所への調査が必要なため、第9期介護保険事業計画の作成準備の段階でその調査を織り込むことを提案し、介護保険課もそれを了承した。

②介護人材の確保策としてどのような事業を行う必要があるかについては、先ず介護人材の中でも訪問介護員の確保が最も必要であることから、その人材の供給元の分析と獲得策について具体的な提案を介護保険課に行い、今後の協議の資料とした。

③介護ニーズについては、「7期実績」から各介護サービスの一人当たりの単純平均回数が割り出されるが、その現実の介護がニーズを満たしているのか不足しているのかが分からない。そのため「8期計画」の数値が実績からの単なる上乗せにすぎず必要数を示すものになっていないことが分かった。必要数をどのようにして算出するのが課題で、それが分かればそこから介護人材の必要数も計算できると思われる。これについては引き続き研究し、市と協議していきたい。

(3) 介護の実態を知るために、介護者(家族)の会、介護に携わっている当会会員、介護職員との懇談会を持ち、意見を出してもらった。その中から特に介護について当会として取り組むべき課題が浮き彫りになってきた。その課題の主なものは・・・

①介護人材の中でも訪問介護員の不足が最も深刻で、その人材の確保が最優先課題である。

②介護職の人達が介護や医療の従事者との交流や意見交換を望んでおり、介護のモチベーションの引き上げにとってそれが大きな刺激になると思われる。

③介護職の仕事についての理解が市民にも介護される側も介護する側も根本的に不足しており、あるべき介護の姿を関係者全員が共有することが非常に大切で、それについての啓発が必要である。

(4) 在宅医療について、地域医療課と懇談を重ね、在宅患者数、在宅医療従事者数の現状と不足

数及び2025年、2040年の必要数を掴む必要があり、それへのデータの取り方について協議を行った。

(C)「やまと西和ネットプロジェクト」(略称:ネットPJ)

<担当者> 長谷川理事

<長期的な計画>

- ① やまと西和ネットは多様な機能を持ったシステムであるが、将来救急時対応・PHR、機能の追加など市民としての要望をまとめていく。
- ② 既に奈良県内で2つのシステムが佐渡ひまわりネットという同一のシステムを基本としている有利さを生かし、このシステムの統合や周辺医療圏への拡張を目指す。

<2021年度の活動総括>

1. 2021年度の総会方針は次の通り。

(1) やまと西和ネットについて市民の理解と参加を推進する。

① ZOOMを利用して少人数でも説明会を開くような活動をする。

(2) 生駒市以外の自治体に対しやまと西和ネット運営協議会への参加を促す。

① 王寺町などの自治体に対しやまと西和ネット運営協議会に参加してもらおう懇談会を開くよう働きかける。

(3) やまと西和ネットの運用推進に向けて、市・市立病院・医師会等関係諸団体と連携する。

① 4月に行われたやまと西和ネット運営協議会の構成を踏まえて生駒市医師会と懇談する。この際コロナ患者治療が大きなテーマになっていることを考え医師会としての考え方を聞かせてもらうことと合わせて当会として対応する。

(4) 当プロジェクトの担当者を増員する。

① 全会員へこのプロジェクトへの参加を呼びかける。

2. 昨年度の方針に対しての実績

(1) やまと西和ネットについて市民の理解と参加を推進する。

① 宇陀けあネットの調査によって市民の同意を得るにはかかりつけの医師からの勧めなどが大きいことが分かったので2021.7.14 やまと西和ネット事務局との懇談で

やまと西和ネットの利用法などを実体験するワークショップ(またはセミナー)を開く
参加者 医療・介護関係者(同時か区別して)

場所 できればメディカルセンター研修室 及び ZOOM でのオンライン

日時 参加者が参加しやすい日時

開催主体 やまと西和ネット協議会、医師会、薬剤師会、介護施設の団体
NPO 法人生駒の地域医療を育てる会

後援 生駒市等

(ZOOMで録画しておき医療(介護・薬局)従事者がアクセスできるようにする

ホームページに市民向けの動画を載せる

という。提案をしたが、この内容を一般社団法人西和医療圏地域医療介護連携推進協議会事務局長森本光博様宛文書にして2021.7.20手渡し、協議会として承認してもらうよう申し入れるなどしたもの代表理事有山先生がお忙しくて会えないなどの理由により実現できなかった。

尚この懇談ではヘルスケアリレーションズの小林氏から次の資料が提供され説明を受けた。

やまと西和ネット 事業の概要 (補助金額、対象医療圏と人口、登録患者数の推移等)
令和3年度運営体制 (理事会、推進委員会、事務局)
情報アクセス権限について (宇陀けあネットと違い介護事業者などが医療情報の多くを制限されている)

②PJとして直接説明会を開く活動はコロナ対応で不要不急の外出を控えることなどの制限もあり中々踏み切れなかった。

(2) 生駒市以外の自治体への働きかけについても協議会事務局の反応も少なく実現していない。

(3) やまと西和ネットの運用推進に向けて、市・市立病院・医師会等関係諸団体と連携する方針については生駒市地域医療課の協力で次のことが実現した。

株式会社ヘルスケアリレーションズとの懇談
日時 2022.2.7 PM 3~PM 4:30 ZOOMによる
参加者 株式会社ヘルスケアリレーションズ 横田元 (取締役副社長)
大阪第2支店奈良県担当 尾臺(おむろ)氏、谷村谷邨氏(現在高知県も担当)
秋田県担当(?) 清水さん(総合企画) 秋田氏(取締役)
生駒市福祉健康部次長 石田氏 (地域医療課課長補佐 桐坂氏)
当会 長島理事長 伊木事務局長 長谷川副理事長

この懇談でヘルスケアリレーションズは全国5地域で医療介護情報連携システムを構築し現在メンテナンスを行っていること、奈良県は重要な地域と位置付けていること、やまと西和ネットのシステム内容について色々説明を受けたこと、またPR動画を幾つか持っているののでやまと西和ネット事務局に送ること等を伺えた。

但しPR動画については4月12日現在事務局に送られていないということである。

医師会へはコロナ対応などの問題を含め当会事務局から医師会長と事務局長に『今後、NPOとの懇談をお願いしたいと考えています、その折にはよろしくお願いします』とあいさつしている。

参考

宇陀けあネット 登録者数 7,122人 2022年4月1日時点 (人口比 約22.0%)
やまと西和ネット 5,709人 2022年4月25日時点 (人口比 約1.7%) (対生駒市約4.8%)
施設参加率 宇陀けあネット 53%/やまと西和ネット 3.8% (2020.3奈良県導入効果調査)

(4) プロジェクト担当者を募ったが増員できていない。

3. 今後の課題

(1) 市民の理解と参加を推進する直接の活動は、コロナへの対応の仕方が国・地域で今後変わっていくようでもありそれによって考えていく。

(2) 医師会とは引き続き懇談できるよう進めていきたい。

(3) 長期的な計画の内「奈良県内で2つのシステムについての統合や周辺医療圏への拡張」については、西和医療圏と東和医療圏間の患者移動性が低く現時点での統一は考えられないものの県西和医療センターや県総合医療センターが参加するようになれば可能性が出てくることが分かった。

(1-2) おしゃべりサロン開催・・・病院PJの企画として実施した (前述)

(2): ニュースやパンフレットの発行事業

①チラシの発行

○5回開催したおしゃべりサロンオンラインのチラシを市内公共施設（市役所、ららポート、コミセン、たけまるホール、美楽来など適宜配布）、ららポートの登録団体レターケース（第4回のみ）に配布、SNSによる案内、手渡しによる案内を行った。

②ニュースレターの発行・・・なし。

(3) 公的機関・医療機関・公益団体などとの連携事業（各PJの事業として前述分は除く）

(3-1) 市や県との連携

①生駒市：

○市との懇談

福祉健康部石田次長：理事長単独、もしくは理事長と事務局長

6/22 8/11 12/15 12/24 1/12 5回

介護保険課長：理事長単独、もしくは理事長と事務局長

5/7 8/17 1/12 3/16 4回

○生駒市制50周年記念式典への出席招待 11/7（伊木ま理事出席）

(3-2) 市立病院との連携

○1/14 コロナ対応、地域医療、市民との交流等のテーマについて懇談した。

懇談に市からも参加頂いた。

出席者：院長、看護部長、事務部長、事務長//NPO 6人 //市 1人

(3-3) 医師会、医療・介護事業所などとの連携

市医師会：コロナ禍が落ち着いてきた年末以降、事務局が市医師会長や市医師会事務局長に懇談会やNPOの企画への協力をお願いした。

やまと西和ネット事務局：7/14 懇談

(4) その他、本法人の目的を達成するために必要な事業

①生駒市自主学習グループフェスタ・・・当会不参加。

②生駒市市民活動推進センター ららまつり（2/6 オンライン開催）・・・伊木ま理事が参加を予定していたが所用があり開催前に参加を辞退した。

③地域医療を守り・育てる住民活動 全国シンポジウム（12/11 オンライン開催

HP：<https://www.zcssz.or.jp/training/symposium/outline.html>）・・・伊木ま・奥田理事が参加。

シンポジウム事務局からコロナ下におけるオンライン活用を報告してほしいとの要請があり、事例報告「コロナ下における活動 ～主としてオンラインの活用について」を行った。

オンライン化だけではなく、そこに詰まった下記の思いを伝え、素晴らしい取り組みとのコメントをいただいた。

・コロナという感染症をピンチではなくチャンスと捉えて、市民が医療により関心を持ってもらえる機会へと転換した。

・医療従事者が大変な思いで医療に向き合っていた期間、市民として何ができるかを考えて、市民同士の対話の場をオンラインで持つことへ注力した。

④生駒市のSDGsアクションネットワークに参加。

1-2. 組織活動について

(1) 国・県・市などへの報告書提出

- ① 県への提出・・・6/30 事業報告書、役員変更届・役員名簿を提出
- ② NPO変更登記（奈良地方法務局）完了 12/28
- ③ 市へ報告書を提出し、4/1 自主学习グループ、3/28 ららポート登録団体の登録を更新した。

(2) 会議

- ① 2021 年度総会 5 月 29 日（土）9:30 -11:15
会場はセイセイビル 401 会議室（7 人）、オンライン（3 人）併用、
（正会員 24 名中、出席者 10 名、委任状 10 名）
非会員オブザーバー 1 人
- ② 理事会
理事長・副理事長選任のための臨時理事会 1 回（総会終了後）
理事会 11 回（第 11 回は ZOOM 会議、それ以外はリアルと ZOOM 会議併用）

(3) 会員の動向・・・退会 1 人、入会 2 人、親族間での交代 1 人

（2022 年 4 月 30 日現在 正会員：25 賛助会員：団体 1）

(4) 会員の参加

- ① 会員及び賛助会員の積極参加を促し、各種事業に参加する会員を増やす。
・理事会議事録及び会員連絡をメール・郵送にて会員に届け、適宜、各種事業への参加も呼びかけた。
・会員メーリングリストの作成により、会員への情報提供・情報共有が進んだ。SNS を利用していない会員に対し、自宅を訪問し環境設定、機器の使い方指導を実施。これによりオンライン理事会への参加が容易となった（1 理事）。外出の難しい会員宅への訪問指導により、おしゃべりサロンオンラインへの参加申し込みに繋がった（1 会員）。（以上の SNS 関係は長谷川副理事長が担当）。
- ② 会員を増やす努力を行う。・・・サロンや懇談会等のイベントの開催回数が前年より増えたことも会員増につながったと考えられる。
- ③ 会報「はぐくむ」の発行担当者の発掘には取り組めなかったため、「はぐくむ」は発行できなかった。

(5) ホームページ・・・

- 7/13 理事長挨拶、貸借対照表更新。おしゃべりサロン第 1 回オンライン掲載（以後、第 5 回まで掲載）。
- 2 月 会の紹介（設立の経緯、市制 50 周年記念事業の中での紹介など）掲載。
- 4 月 LINE オープンチャット「生駒の医療介護相談室」開設を掲載。

(6) フェイスブックの活用・・・

奥田・沢田・湯川理事が担当。管理者は奥田理事。
発信する時は管理者の責任において発信する（発信後問題が発見された場合は直ちに対処する）こととした。2022 年 3 月に立ち上げ完了。

その2. 2021年度事業収支報告及び決算

2-1. 2021年度決算書

(1) 貸借対照表

2022年3月31日現在 (単位：円)

科目	金額	備考
I 資産の部		
1. 流動資産		三井住友銀行 生駒支店 普通預金
現金預金	2,401,332	
未収金	0	
流動資産合計	2,401,332	
2. 固定資産		
(1) 有形固定資産	0	
(2) 無形固定資産	0	
(3) 投資その他の資産	0	
固定資産合計	0	
資産合計	2,401,332	
II 負債の部		
1. 流動負債	0	
2. 固定負債	0	
負債合計	0	
III 正味財産の部		
前期繰越正味財産	2,402,245	
当期正味財産増減額	-913	
正味財産合計	2,401,332	
負債及び正味財産合計	2,401,332	

2. 2021年度事業収支決算書

2021年4月1日から2022年3月31日まで

科目	予算額	金額	摘要
経常収支の部			*詳細は金銭出納帳に記載
I 経常収入			
1 会費収入	180,000	175,200	正会員 55,200円(3名未収分は銀行振り込みを依頼します) 賛助会員 120,000円
2 事業収入	0	0	

3 補助金・寄付金等収入			
①補助金収入(2018年度自主学習)	40,000	0	
②寄付金収入	0	7,500	地域社会振興財団より全国シンポジウム発表謝礼
経常収入合計	220,000	182,700	
II 経常支出の部			
1 事業費			
1 地域医療のための調査、企画立案、提言などの事業	662,000 (1)+(2)	8,425	介護・病院PJ(会場費・印刷・講師謝礼)
2 地域医療のための見学会、学習会、講演会などの事業			
3 地域医療のためのニュースやパンフレットの発行などの事業	100,000	0	主要な理由
4 地域医療のための公的機関・医療機関・公益団体との連携事業	70,000	0	新型コロナウイルス感染拡大の中執行が不可になったため。
5 その他、本法人の目的を達成するために必要な事業	135,000	0	全国シンポジウムはオンラインで対応したためなど。
事業費合計	967,000	8,425	
2 管理費			
役員・職員の報酬	0	0	
事務所費	4,000	4,000	印刷・電話代・会員連絡
消耗品費	10,000	3,253	ホッチキス・ファイル・印鑑
通信運搬費	15,000	26,735	総会・会員連絡用送料 サーバー・ズーム利用料
交通費	30,000	21,000	県外理事交通費補助・打ち合わせ等
印刷製本費	10,000	1,130	理事会資料・総会資料・会員連絡
会議費	10,000	1,885	総会会場費(特別減免の適応を受ける)
管理費合計	79,000	58,003	
3 予備費			
予備費合計	100,000	117,205	ズーム会議用パソコン等設備一式
経常支出合計	1,146,000	183,633	
経常収支差額 (A)	-926,000	-933	
III その他資金収入の部			

1 前年度繰越金	2,402,245	2,402,245	
2 利息	15	20	
その他の資産収入合計	2,402,260	2,402,265	
IV その他資金支出の部			
1 固定資産取得支出	0	0	
その他の資産支出合計	0	0	
その他収支差額 (B)	2,402,260	2,402,265	
当期収支差額 (A)+(B)	1,476,260	2,401,332	
次期繰越収支差額	1,476,260	2,401,332	


備考

会費を銀行振込にて納入される方は、下記の口座にお願いします。

三井住友銀行 生駒支店 普通預金 4101175 特定非営利活動法人 生駒の地域医療を育てる会

2-2. 2021年度会計監査報告書

2022年4月18日



特定非営利活動法人
生駒の地域医療を育てる会
理事長 長島 稔様

監事 宮内正敏

会計監査報告書

2021年度 特定非営利活動法人 生駒の地域医療を育てる会の
会計（2021年4月1日～2022年3月31日）について、
下記の関係帳簿により監査の結果、その内容は正確であることを
認めます。

○収支計算書
○現金出納帳
○収入・支出関係書類
○預金通帳

三井住友銀行 生駒支店
預金種別 普通預金
口座番号 4101175
名義 特定非営利活動法人 生駒の地域医療を育てる会

以上

第2号議案・・2022年度事業及び事業収支予算

(特記事項) 新型コロナウイルス感染拡大への対応

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染とそれへの対応の経験を生かして当会の活動を行っていく。

< 当会設立と定款の趣旨に基づく独自の目標 >

当会には地域医療を守り育てる目標があり、この大規模感染に対してその目標を果たすために昨年度に引き続き何ができ、何をすべきかを追求する。

①医療介護等の現場で今後持続的に必要なことは何かを見極め、認識を市と共有し、対策を検討する。

②長期の感染状態の中で市民を守るために何ができるかを考え、会としてできることを遂行する。

③コロナ対応の観点をPJ活動に組み入れて、コロナ対策に寄与する。

< 感染継続の中での活動 >

①新型コロナウイルス感染が予断を許さない現状で、事業方針については感染が持続することを前提に3密を避ける、SNSの活用、その他多様な方法を取りこんで活動方法を柔軟に採用して前に進める。

②理事会等の会議については昨年度の経験を活かし、ZOOM会議等を活用してより有効に意思疎通と決定ができるように努力する。

その1. 2022年度事業方針及び予算

1-1. 2022年度事業方針

定款第5条(事業の種類)に基づき記述する。

(1) 調査研究、提言などの事業 及び見学会、学習会、講演会などの事業

具体的な実施事業では定款の上記2つの事業は明確に分けられないため、1つにまとめて報告する。

昨年度に続き3つのプロジェクトを軸に活動を推進し、新たに立ち上げたオープンチャットの可能性を追求する。

(1-1) プロジェクトチーム(PJ)による活動

(A) 「長期的な生駒の地域医療・生駒市立病院の将来像を考えるプロジェクト」(略称:病院PJ)

< 2022年度の活動方針 >

昨年に引き続き、

①市民の当事者意識の醸成と意見の聴取

おしゃべりサロンの実施 可能であればもしバナゲームやワールドカフェも検討する。

市民への呼びかけを行うにあたり、1年分のスケジュールやテーマを提示し、興味がある方には早めに予定に入れてもらえるようにする。また、早めから告知することで何度も目に触れるようになることを目指す。

おしゃべりサロン オンライン計画案

*バージョン1 伊木ま・奥田

内容:日本や生駒に身近なテーマで聞き話す

日程(仮) 8/2 10/28 12/23 1/31

*バージョン2 伊木雅之さん(最初のレクチャー)・奥田

内容:海外の医療制度を知ることにより日本の医療について考える。日本に暮らす外国人の方の経験を聞き話す

日程(仮) 7/15 9/30 11/11

1回目 イギリス (ナショナルヘルスサービス NHS)

2回目 アメリカ (健康保険を中心に)

3回目 北欧 (家庭医等を中心に)

②地域医療構想を知る・・・地域医療構想調整会議や医療審議会での協議内容を注視する。

③市民・市・市立病院・生駒市医師会との対話

LINE チャット(生駒の医療介護相談室)や他のPJと連携する。

(B)「生駒の地域医療・在宅医療・介護・かかりつけ医を考えるプロジェクト」(略称:介護PJ) **<2022年度の活動方針>**

(1)「総合事業」について

昨年度はコロナ禍のために実施できなかった懸案①②について、コロナの状況を見ながら、中地区での活動状況の把握から始め、当会で出来ることを見極めながら取り組む。

① 一昨年度当会の提案と生駒市の施策が合致して開始された「住民主体の生活支援サービスモデル事業」を軌道に乗せる。

② 「住民主体の生活支援サービスモデル事業」を軌道に乗せるための財政支援の改善を市に要望する。

(2) 第8期介護保険事業について

① 介護人材特に訪問介護員について、現在の人数、2025年・2040年の必要人数と獲得すべき人数を中心に把握できるようにする。

② 介護サービスの提供について、現状の把握と将来必要とするサービス量を割り出す方法を検討する。

③ 以上①②についてデータを掴む方法を市と協議し、第9期計画の準備段階でそれを用いて調査できるようにする。

(3) 介護問題への取り組み

① 介護医療関係者の交流会の実施・・・当会主催、市の後援とするか共催として交流会を計画実施する。誰でも参加できる形にする。年に2回実施し、初めは目標を設定せず、そこから見えてきたものから2回目は目標を設定して取り組む。参加者の会費性とするが当会からの協賛金を用意する。市からの協賛金も要請する。

② 介護の仕事についての市民への啓発・・・講演会を計画する。SDGs 関連行事、自主学習グループフェスタ、ららまつりなどを利用して市民参加型のイベントを企画し、市民への啓発に役立つ。市と協働する。

③ 介護人材獲得の方策・・・訪問介護員の獲得を課題にしてその方策を市に提言する。夜間の介護士の確保のための事業者の協力の構築をテーマにした検討を行う。

(4) 在宅医療の実態把握と対策

① 在宅患者数、在宅医療従事者数の現状と不足数及び2025年、2040年の必要数を掴む。

② 在宅医療の前進に向けた対応の検討として、市立病院があげられていた課題(市立病院との懇談の際に病院長から話された課題)を当会としても注視する。

④在宅医療の充実のために病院と診療所との連携の強化策として市立病院に「在宅医療部(仮名)」を考える(開業医との軋轢を生まないように前向きな連携をつくる)件。

⑤在宅患者の憎悪時の支援がスムーズにできるように、クリニックから病院への受け渡しが迅速にできるようにする件。

(C)「やまと西和ネットプロジェクト」(略称:ネットPJ)

<2022年度の活動方針>

(1) やまと西和ネットについて市民の理解と参加を推進する。

① ZOOMを利用して少人数でも説明会を開くような活動をする。

② 医療・介護従事者がそれぞれの患者や利用者に対してやまと西和ネットに参加することを勧めてもらうために、システムをよく知ってもらう活動を運営協議会とともに進める。

③ 市民の理解を深めるためにかかりつけ医がやまと西和ネットを利用して医療を進める動画(注)をやまと西和ネットのホームページや当会のホームページに掲載する。

(注：ヘルスケアリレーションズ提供の動画または当会が必要に応じて編集する動画をいう)

(2) 協議会と協力して生駒市以外の自治体に対しやまと西和ネット運営協議会への参加を促す。

(3) やまと西和ネットの運用推進に向けて、医師会・市・市立病院等関係諸団体と連携する。

(1-2) オープンチャットの活用

(1) 利用者・投稿者を飛躍的に増やす。

①チラシを発行する。・・・1年に数回、その時のPR内容を決めて発行する。

②設立説明会の開催・・・リアル説明会を開き、それを利用して市の広報誌で宣伝する。

③当会の各種イベントの際に紹介し、イベント参加者にオープンチャットへの参加を呼びかける。

④開設より約半年が経過した段階で、利用状況を分析し、今後の可能性や改善策などについて検討を行う。

(2) 活用方法を検討する。

①一定の投稿が集まった時点で、集約し活用方法を検討する。

②投稿数や内容がある程度の意味を持つと判断したときは、市や市立病院に紹介する。

(1-3) おしゃべりサロン開催・・・病院PJでオンライン開催を計画。他のPJと連携による開催やコロナの状況を見ながら、可能になれば対面での開催も検討する。

(2) ニュースやパンフレットの発行事業

①当NPOの活動によって得られた情報を広く社会に提供する。

②各事業のためのチラシやニュースレターを必要に応じて発行する。

(3) 地域医療のための公的機関・医療機関・公益団体との連携事業

(3-1) 市や県との連携

①コロナ拡大への対応に関して必要な連携を行う。

②生駒市の危機管理体制について・・・取り組み方法を検討する。

③生駒市立病院事業推進委員会、生駒市立病院管理運営協議会、県医療審議会、生駒市医療介護

連携ネットワーク協議会、西和構想区域地域医療構想調整会議などを傍聴する。

- ④生駒市自主学习グループフェスタ・・・参加する
- ⑤生駒市市民活動推進センター ららまつり・・・参加する
- ⑥生駒市のSDGsアクションネットワークに参加し、協力する。
- ⑦PJ 関連についてはそれぞれのPJの活動方針に示す。

(3-2) 市立病院との連携

- ①コロナ対応として市立病院と意見交換を行い、認識を共有し、必要に応じて市民に発信する。
- ②市立病院との懇談会で病院長より話があった”市立病院と近大奈良病院とが連携し、生駒市内の他の病院それぞれが得意分野の医療を提供しあい、生駒の地域医療全体としてまとめることによって、現在は大阪が近いのでそちらに行ってしまう人が多いが、そのような人を減らしていけるようにしたい。”という構想について、当会としても近大奈良病院が許可された地域医療支援病院の意味も含め学習する。本件の担当者については理事会で決定する。
- ③PJ 関連についてはそれぞれのPJの活動方針に示す。

(3-3) 医師会、医療・介護事業所などとの連携

- ①コロナ対応として医師会・医療介護事業所等と意見交換を行い、認識を共有する。
- ②PJ 関連についてはそれぞれのPJの活動方針に示す。

(4) その他、本法人の目的を達成するために必要な事業

- ①医労連との懇談会・・・コロナの状況を見ながら、可能になれば開催を検討する。
- ②地域との連携・協働の取組・・・PJの活動を通じて連携・協働を追求する。
- ③地域医療を守り・育てる住民活動 全国シンポジウム・・・参加予定

1-2. 組織活動について

(1) 国・県・市などへの報告書提出

- ①県への提出・・・役員変更届・役員名簿を提出する。
- ②国からの回答要請・・・経済センサス・活動調査等に適宜回答する。

(2) 会議等

- ①理事会・・・原則として月に1回第4土曜日に開催する。ZOOM 会議とリアルの併用を基本とし、コロナの動向により柔軟に開催する。
- ②忘年会等・・・会員の交流の場を設けることに取り組むが、コロナの状況により臨機応変に対応する。
- ③総会・・・来年度のできるだけ早い時期に開催する。

(3) 会員の参加

- ①会員及び賛助会員の積極参加を促し、各種事業に参加する会員を増やす。
- ②会員を増やす努力を行う。
- ③会報「はぐくむ」の発行については、担当者の発掘が必要で今年度のできるかどうかは不明。

(4) ホームページ

- ①2022 年度総会後できるだけ早期に 2022 年度の理事長挨拶、事業計画、会計報告を掲載する。

- ②会から市民への発信事項、会の行事の予定、その他会の活動趣旨に関連ある情報等を随時掲載する。
- ③総会議案及び議事録をホームページに掲載する。理事会議事録については2019年度第2回理事会にてホームページに掲載することを決定したが、この決定を保留とし、再度理事会で検討することとする。
- ④ホームページへのアクセス数をカウントできる設定を検討する。

その2. 2022年度事業計画及び予算

2-1. 2022年度事業予算案

(1) 地域医療のための調査、企画立案、提言及び見学会、学習会、講演会などの事業

①病院PJに係る取組	200,000円
チラシ・ニュースレター印刷代	34,000円
ニュースレターのデザイン料	50,000円
もしバナマイスタープログラム受講講座	18,000円×2=36,000円
講師謝礼	(3000円～5000円)×10回=50,000円
イベント実施雑費(お菓子、文房具など)	10,000円
会場費	10,000円×2回=20,000円
②介護PJに係る取組	200,000円
「住民主体の生活支援サービスモデル事業」関連費用	50,000円
介護医療交流会関連費用	100,000円
介護に関する啓発活動(講演会等)	50,000円
③やまと西和ネットPJに係る取組	113,000円
市民向け、医療・介護従事者向け説明会等	100,000円
交通費等	3,000円
ホームページへ掲載するPR動画作成	10,000円
④LINEオープンチャット	30,000円
チラシ発行	3回 15,000円
説明会	15,000円
⑥その他	10,000円
合計	553,000円

(2) ニュースやパンフレットの発行事業

合計	50,000円
-----------	----------------

(3) 地域医療のための公的機関・医療機関・公益団体との連携事業

- | | |
|--------------|--------|
| ①市や県の会議の傍聴提言 | 5,000円 |
|--------------|--------|
- (生駒市立病院事業推進委員会、生駒市立病院管理運営協議会、県医療審議会、生駒市医療介護連携ネットワーク協議会、西和構想区域地域医療構想調整会議など)
- | | |
|---------------------|--------|
| ②中地区健康まちづくり協議会関連費用 | 5,000円 |
| ③医師会、医療・介護事業所などとの懇談 | 5,000円 |

- ④生駒市自主学习グループ・生駒市市民活動推進センターへの参加・・・5,000 円
- ⑤地域医療を守り・育てる住民活動全国シンポジウムへの参加・・・30,000 円
- ⑤その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10,000 円

合計 60,000円

(4) その他、本法人の目的を達成するために必要な事業

- ①医労連との懇談・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5,000 円
- ②その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30,000 円

合計 35,000円

2022年度総事業費・・・ 698,000 円

2-2. 事業計画書

特定非営利活動に係る事業

2022年4月1日～2023年3月31日まで

定款の 事業名	事業内容	実施 予定 日時	実施 予定 場所	対象者	支出見込 額 (千円)
(1)地域医療の ための調査、企 画立案、提言な どの事業	①在宅医療・介護に係る取組み ②やまと西和ネットに係る取組み	適宜 実施	主として 市内の公 共施設等、 テーマ毎 に適宜	会員・市 民・県民な ど	60 ① 50 ② 10 444
(2)地域医療の ための見学会、 学習会、講演会 などの事業	①地域医療・市立病院に係る取組み ②在宅医療・介護に係る取組み ③やまと西和ネットに係る取組み ④オープンチャット説明会 ⑤その他			(会場費、 講師謝礼、 お茶代な ど)	①166 ②150 ③103. ④ 15 ⑤ 10
(3)ニュースや パンフレットの 発行等事業	(1)(2)(4)などの予定や結果 を広く社会に提供する	適宜 実施		市民・県民 など	99
(4) 地域医療のため の公的機関・医 療機関・公益団 体との連携事業	①市や県との連携 ②市立病院との連携 ③医師会、医療・介護事業所など との連携 ④生駒市市民活動推進センター、自 主学習グループ連絡会への参加 ⑤地域医療を守り・育てる住民活動 全国シンポジウムへの参加 ⑥その他	適宜 実施	テーマ毎 に適宜	会員・市 民・県民、 地域住民 など	60 ① 5 ② 5 ③ 5 ④ 5 ⑤30 ⑥10

(5)その他、本 法人の目的を達 成するために必 要な事業	①医労連との懇談	適宜 実施	テーマ毎 に適宜	会員・市 民・県民な ど	35
	②その他				① 5
					③ 30

合計 698千円

2-3. 2022年度事業予算書 (2022年4月1日から2023年3月31日まで)

科 目	金 額		
経常収支の部			
I 経常収入			
1 会費収入			
年会費			
正会員：2,400円/人×25人	60,000		
賛助会員	120,000	180,000	
2 事業収入	0	0	
3 補助金・寄付金等収入			
①補助金収入			
生駒市（生涯学習自主学习グループ補助金）	40,000		
②寄付金収入	0	40,000	
経常収入合計			220,000
II 経常支出の部			
1 事業費			
(1) 地域医療のための調査、企画立案、提言などの事業	60,000		
(2) 地域医療のための見学会、学習会、講演会などの事業	444,000		
(3) 地域医療のためのニュースやパンフレットの発行などの事業	99,000		
(4) 地域医療のための公的機関・医療機関・公益団体との連携事業	60,000		
(5) その他、本法人の目的を達成するために必要な事業	35,000	698,000	
2 管理費			
役員・職員の報酬	0		
事務所費	4,000		
消耗品費	10,000		
通信費（ホームページ含む）	30,000		
交通費	30,000		
印刷製本費	10,000		
会議費	10,000	94,000	
3 予備費	100,000	100,000	
経常支出合計			892,000
経常収支差額 (A)			-672,000

Ⅲ その他資金収入の部			
1 前期繰越金	2,401,332		
2 利息	20		
その他の資産収入合計			2,401,352
1 固定資産取得支出	0	0	
その他の資産支出合計			0
その他収支差額 (B)			2,401,352
当期収支差額 (A) + (B)			1,729,352
次期繰越収支差額			1,729,352

第3号議案・・2022年度人事

1. 役員人事

(1) 理事長及び副理事長

定款の定めにより理事長及び副理事長は理事会で決定するため、以下の者を理事会に推薦する。

理事長・・・長島稔(留任)

副理事長・・・長谷川惇(留任)

(2) 理事及び幹事

理事(50音順)・・・伊木雅之(留任)、伊木まり子(留任)、石堂吉輝(留任)、小田享子(留任)、
奥田陽子(留任)、熊谷江利子(留任)、沢田かおる(留任)、長島稔(留任)、
長谷川惇(留任)、湯川直紀(留任)

監事・・・宮内正巖(留任)

2. その他の人事

(1) 事務局、法務局への登記関連担当・・・伊木まり子理事(事務局長)、奥田理事

(2) 会計、自主学習グループ・ららポート担当、県への報告書提出担当・・・沢田理事

(3) ホームページ担当・・・伊木雅之理事

(4) フェイスブック担当・・・奥田理事

(5) オープンチャット(LINE)担当・・・長島理事

以上